



# 石積っ子

教育目標 **さいごまでやりぬく子 からだをきたえる子 もとめて学ぶ子 とを大切に**

坂本小だより 令和5年 7月号

児童数592名(24クラス)

坂本小HP <http://www.otsu.ed.jp/skmt/>

校長 上島 憲一

## うみのこ『自分大好き 友だち大好き びわこが大好き』

～大きなことはできませんが 小さなことからコツコツと～

4年ぶりに宿泊が復活した今年度のFS。参加した本校の5年生にとっても初めての宿泊体験となりました。その開校式の中で、合言葉は『自分大好き 友だち大好き びわこが大好き』という話をしました。何不自由のない心地よい我が家を離れ、悪天候や厳しいルール、制限のある船内での集団生活を乗り越えて一回り大きくなっていく自分を大いに誉めて『自分大好き』になってほしい。そして、いつも一緒に居る仲間はもちろん、今回の航海と一緒に活動する仰木の里小のみんなとの交流を通して、自分とは違ったお友だちの魅力を見つけて『友だち大好き』に、さらには五感を研ぎ澄ませて日本一の琵琶湖を全身で感じて『びわこが大好き』になりましょう。という内容です。環境問題を身近に捉え、自分事として考えられる一つの機会としてほしいとの思いを込めました。



環境問題といえば、40数年前に「びわ湖を守る条例」を定めるなど、滋賀県が全国に先駆けて取り組み始めた問題です。世界中でも「温暖化」の問題についてその対策が議論されています。温暖化がもたらす影響は至る所で確認され、我が国でも温暖化が一つの要因とされる「集中豪雨」による被害が毎年のように発生しています。我々が何をどうやっても、今すぐに温暖化を食い止めることも豪雨をなくすこともできません。だからといって何も考えない人にはなりたくありません。腰をかがめて目の前に落ちているゴミを捨てることなど、自分の力が及ぶ足元の些細な行動が環境問題についてしっかり考えることにつながります。子どもたちにも、環境先進県の滋賀県が誇る琵琶湖を好きになることから環境問題について考えてほしいと願います。

今は力の及ばない大きな問題に対しても、自分ができる身近なことを大切にして積み重ねていくということは、環境問題に限ったことではありません。例えば1年以上続くロシアとウクライナの問題も然り、何度も流れるニュースを見て思いを巡らせることはありますが、我々がどうあがいてもどうなるものではありません。それでも、自分の日常で「気に入らない」「不都合だ」ということに対して、力づくで解決しようとけんかするのではなく、互いの思いを受け入れながら平和的に解決の道を見いだすことはできます。すぐにカッと手を出してしまう行動を日常の生活からなくしていくことが最終的には戦争のない平和な世の中につながると考えなければなりません。

「大きなことはできませんが、小さなことからコツコツと」とは、その昔、タレント議員が言った有名なセリフですが、まさに自分が正しいと思ったことは、できることから少しずつ確実にやるのが大切です。



## 石積会(学校運営協議会) 6.15より



先日、第1回学校運営協議会(兼、150周年記念事業実行委員会)が開かれました。学校側から学校経営方針や学力向上、生徒指導、学校予算について説明した後、それぞれの立場から意見を出し合い有意義な交流ができました。学校だけではなくPTA、地域も子どもたちファーストの視点を大切にいただいていると再確認できました。

また熟議では「創立150周年を機に、地域、保護者との連携を深めたい」Ⅲをテーマに具体的な案を出し合いながら進めました。以下に熟議の記録を抜粋して紹介します。

### 【地域・PTA・学校の連携 ～150周年を機に、コロナで途切れていた地域とのつながりをもう一度深めたい～】

学校(教育課程、児童会)、PTA、地域と一緒に一大イベントを企画するという大きな構想ではなく、それぞれが現行の活動をもとにして連携できそうな案を立て、実行委員会でも互いに協力し合えそうな箇所を検討するというコンセプトをもとに、現時点での進捗状況を交流しました。

〈学校〉○航空写真をみんなで一緒に撮影 ○「サカえもん」とびだし坊やや「サカえもん横断旗」の制作 ○坂小プロモーション動画の制作 ○坂小150才の誕生日会 等を検討中

〈PTA〉○親子で坂本ウォークラリー ○親子で比叡山(八王子山)登山 ○夜の学校で肝試し ○地域の方としめ縄づくりとどんど焼き ○サカえもん壁画の制作 ○記念品の作成と配布 等を検討中

〈地域〉○学校やPTAの企画に協力 ○運動会で新旧校歌の合唱 ○文化祭で今昔写真展 等を検討中



